

「いじめ」信号を見逃さない!

- ◎「いじめ」は、他人の人格を傷つける重大な人権侵害であるとともに、時には人の生命をも奪ってしまう、絶対にあってはならないことです。
- ◎このリーフレットは、「いじめ問題」をとおして、あらためて生活の拠点である家庭において、すべての保護者が「子どもの健やかな成長を支えよう」という意思のもと、「子どもの心にもっと近づくことができれば」という願いで作成しました。
- ◎各学校でのPTA活動等において、それぞれの経験や体験をもとに話し合いや交流をもちながら、学校や地域と協力し、「いじめ問題」の具体的な解決に向けての取組が進むことを願っています。

「なぜ気づいてやれなかったのか」

いじめ自殺 ～遺族の悲しみ消えず～

「普通の女の子がなぜ、生きていけなかったのか。
残念でならない」
「娘の死を無駄にせず、二度と同じ過ちを繰り返さないでほしい」

中学2年の女子生徒 父親

「同居していながら、苦しみに気づけなかったことを悔やむ」
「自分の『ふがいなさ』は、
時がたつほど、強まってくる」

小学6年の女子児童 同居の祖母の兄

「いじめに気づいてやれなかった悔しさは消えない」
「息子がどのように苦しんでいたのかを知りたい。
いじめの詳しい内容が分からないのが、何よりつらい」

中学2年の男子生徒 父親・母親

(2007年11月16日 読賣新聞朝刊より抜粋)

あなたのお子さんは大丈夫ですか?

- ★加害(いじめる)・被害(いじめに遭う)に関わらず、いじめに関係している子どもは、何らかのサインを出していることが多くあります。
- ★家庭で、子どもの表情や態度の変化に気づくことが、いじめの早期発見につながります。